

四日市笹川団地訪問記——笹川小学校教諭・藤川純子さんにお会いして
2021年3月5日(金)

〇〇〇

1. 外国籍の人びとの生活と存在に気づく 野出華生
2. 知らせることの大切さ 寺澤朋花

〇〇〇

1. 外国籍の人びとの生活と存在に気づく

野出華生

今回の四日市訪問は私にとってまだ知らない日本の側面を見ることができたなと感じました。私自身、周りの友達に外国籍の子が極端に少なく異文化理解に関して興味や関心を示すのが遅かったと思います。しかし、私達が訪問した笹川地区の子供達は幼い頃から異文化に関して多くの興味を持ち学び率先して考えているようでした。

日本に生まれ日本で育ってきた身として、自分の周りに外国籍ルーツの人がいるというのはやはりどこか違和感を感じます。その違和感の良い意味で捉えることもできれば悪い意味で捉えることもできます。恐らくある程度成長し、社会というものを知った人の大半にとって、日常生活に外国籍のルーツの方が居たら多少ネガティブな印象を持つものなのかなと藤川さんのお話を聞きながら考えました。それは、1つの事例によるものであったり先入観であったり理由は様々です。ですが、私が今まで出会ってきた在日の外国籍の方は素敵な方が多く、その方達にネガティブなイメージは一切ありません。金城の中華料理店のおばさんであったり、バイト先に良く来てくれる英会話の先生であったり、朝よくすれ違うベトナム人の親子だったり。だからこそ、私自身も「国籍に関係なく皆が共存し平等に暮らせる世界」というものを強く願います。そのためにはやはり、幼い頃から異文化を理解する環境を自然と作り上げていくことが必要だと考えます。「作り上げる」という表現もいかがなものかと思いますが、異文化に興味を持ち学ぶということは世界に関する視野を広げ早い段階で世界に目を向ける大きなきっかけになると思います。

藤川さんのお話を聞いている途中で誰かが「私もこういう環境で過ごしてみたかったな」と言っていました。この言葉は四日市訪問の中でも特に印象に残っている言葉です。私たちはまだ学生と言う立場であり学ぶ時間はいくらでもあります。そして自分自身の考えの視野を広げることもできます。しかし、社会に出てこういったことを学べるのかと考えた時に恐らくそれは難しいのではないのでしょうか。「時は金成」と言う言葉があるように、特に幼い頃の時間はどの時間にも変えられない貴重なものです。多くの子供達に異文化について興味や関心をもち世界の多様性について触れて行って欲しいなと思いました。そして、この活動を通し自分自身の考えにも少し整理がつき心が軽くなったような気がしました。とても貴重な体験だったなと思います。ありがとうございました。

2. 知らせることの大切さ

寺澤朋花

私は先日、現在、約 2000 人のブラジル人が生活する三重県の日市市の笹川団地を訪問し、外国人ルーツの子どもの教育に詳しい藤川純子さんとお会いした。藤川さんは長年に渡り教師として活躍されている傍ら、教師という仕事を休職されて、三重大学の教職大学院で子どもにとってのより良い教育について追及されるなど、日々奮闘されている女性という印象を私は持った。そして、藤川さんの教師に至るまでの経歴や活動、笹川団地の歴史などについて幅広くお話を伺い、多くの資料も頂くことが出来た。特に印象的であったのが、日本で差別が原因で発生した事件が数多く存在していた事実があるという点である。中でも、藤川さんが外国人ルーツの子ども教育に関わるきっかけとなった 1997 年に愛知県小牧市で起きたエルクラノ君殺人事件は、普通に生活していた日系ブラジル人であるエルクラノ君が突然、無法者として酷いリンチを受け、暴力を振るわれた上に殺害されたという悲惨な差別事件であった。私は、未熟にもこのような差別事件が私の住む愛知県内で発生していたと知らず、衝撃を受けたのに加えて同じ日本人として怒りの感情が芽生えた。当時、藤川さんは、教師としてエルクラノ君と同年のブラジル人の生徒を受け持っていたのに加えて、私と同じような感情を抱いていたので、実際にエルクラノ君のお母さんに会って、事件についてのお話を聞くという体験をした上で、このような日本であった酷い差別事件を世の中に知らせる必要があると考え、事件の詳細が詳しく書かれた本を売る活動や職業である教師として子ども達に伝えるという活動に取り組まれた。私は、この一連の活動のお話を聞き、藤川さんの知らせるための行動力の大きさに感銘を受けた。知らせるための行動は、決して簡単なことではなく、勇気も必要であると私は感じる。しかし、藤川さんは率先して日本から差別を無くそうと様々な活動に取り組まれてきた。実際に私も今回、藤川さんの知らせるための行動から、日本に残る外国人の差別について知ることが出来た一人である。私は、このような素晴らしい行動力から、知らせることの大切さに気付かされました。

つまり、私たちは今後、藤川さんように体験したことや聞いて知ったことを理解するだけでなく、行動や発信、共有していくまでの一連の行動をすることが、まだ日本に残る外国人に対しての差別意識の解消に繋がることを学んだ。